近代化遺産　旧陸軍施設に関する研究

K00066　武宮　恭子

1 はじめに

日本は戦後、新しいものを求めあらゆる資源を使い、いろいろなものを作り出してきた。しかし、資源と環境の限界に気づき、人々は自分の地域の町並みや歴史、景観に対し全国各地から歴史的環境を守る住民運動や市民運動が行われた。

近代建築遺産の対象の時代には「戦争」という大きな問題が含まれている。日本の歴史の中でもかなり重要な「戦争」に関わった「軍」の施設に関する研究、文献はほとんど残っていない。それは爆撃下の中、体験を文字化することはありえなかったこと。敗戦直後、軍事関係の公文書は戦争の証拠を連合軍から隠すために大量焼却されたことからいえる。しかし、日本の近代化の歴史を語る上で欠かすことのできない旧陸軍施設は実態を解明されないまま時を過ごしてきた。

2 研究目的

本研究で扱う旧陸軍施設は、「戦争」という言葉を語るのに欠かせないものである。現存する旧陸軍施設の維持管理は陸上自衛隊の駐屯地ごとに任されているもの、現在も自衛隊によって使用されている建造物もあるが、その数は少なく多くは用途を持たぬまま老朽化が進行し取り壊されてしまう可能性が高くなっている。早急に現地調査を行い修復すべきか、あるいは情報保存すべきか判定し、今後の保存・活用に向け、有効な方向性を探求することを目的とする。

3 研究方法

i）　実測調査を行った建造物のデータをもとに、復原し、建造物の特徴を明らかにする。

ii）　調査対象建造物と研究室で行われている研究データを加えた 12 棟について現在までの使用用途、所管の変化を年表にし、類型化する。

4 研究内容

4－1 実施調査について

今年度、慶應大学三宅理一研究室と芝浦工業大学伊藤洋子研究室の合同研究である、「近代化遺産　旧陸軍施設に関する研究」に参加した。調査対象建造物を表１に示す

表１　調査対象建造物について

	建設年代	屋根		外壁	
		葺材	形状	現状	復原
山口県尚武館	明治30年	日本瓦葺き	入母屋	モルタル	漆喰塗り
香川県師団司令部	明治31年	日本瓦葺き	寄せ棟	アクリルエマルション系リシン吹付	漆喰塗り
石川県師団司令部	明治29年	日本瓦葺き	寄せ棟	モルタル	漆喰塗り
石川県尚古館	明治31年	日本瓦葺き	寄せ棟	モルタル	漆喰塗り

4－2 山口県防長尚武館について

写真１　山口防長尚武館

建設年代は明治 30 年旧陸軍歩兵第 42 連隊が駐屯していた当時、旧軍部武徳殿として建設された。使用年代は明治30年～昭和20年。戦後はニュージーランド軍が進駐し、駐留軍司令官舎として使われた。総ヒノキ作りだが連合軍が駐留した際　にすべての柱を朱色に厚く塗り、木目が見えないようにしたという話を自衛隊の方から聞いた。実測を行った際に官舎として使用されていたときの痕跡と思われる排水管跡や暖炉跡などを所々に見ることが出来、時代に合わせて現在まで姿を変えてきていることがわかった。

図１　尚武館現状平面図

4－3 旧陸軍施設　師団司令部

師団とは、明治21年鎮台と呼ばれていた編成を改称したことが、発足の始まりで、１万4,5千人の兵力で標準的にまとまった戦略単位である。はじめは東京、仙台、名古屋、大阪、広島、熊本の鎮台を５年がかりで第１～第６師団とした。師団番号は東京を第１とし、北から順に2,3…とした。その後日清戦争（明治27年～28年）時に６個師団、次いで日露戦争（明治37年～38年）後、６個師団が増設された。本研究では最初の時期に設置された17師団のうち現存している４棟中、2棟に注目したい。

表２　師団司令部現状

旧師団番号	現存	都道府県	都市	現状
1		東京	港区	北の丸公園、ビルになっている
2		宮城	仙台	東北大学内　松川大将顕彰碑のみ
3		愛知	名古	名古屋城内　レンガ塀のみ
4	○	大阪	大阪	大阪城内から移築される。歴史博物館として使われたが閉館中
5		広島	広島	広島城内にあったが、原爆とともに消失
6		熊本	熊本	不明
7		北海	旭川	師団司令部正門の石門のみ保存
8		青森	弘前	不明
9	○	石川	金沢	金沢城内から移築。県所管、登録文化財
10		兵庫	姫路	学校が建つ　陸軍省所轄地石柱のみ残
11	○	香川	善通	自衛隊所管、第2混成団本部として使用
12		福岡	久留	小倉城内の本丸跡に石碑や史跡が残る
14		栃木	宇都	国立栃木病院となる
16	○	京都	伏見	聖母学院本館として使用。元のまま現存

4－4 香川県旧第11師団司令部

写真２　旧第11師団司令部

建設年代は明治31年で、北を正面としコの字形の平面をしている。外観は漆喰塗りの外壁に寄棟造りの屋根をのせた意匠で洋館を思わせる。現在は陸上自衛隊善通寺駐屯地内に現存し、第二混成団本部が使用している。ほとんど元のまま形状を残しているが、自衛隊所管の書類に昭和 36 年に改修が行われたという文面が見つかった。その際扉や柱、床などの補修が行われたと思われる。また過去との大きな違いとして、大正11年に車寄せが増築されたことがあげられる。内部の痕跡を多数見ることが出来、復原可能である。

（歴史的経緯）

香川における師団司令部の設置は日清戦争後の師団増設により決定された。それまでは大阪鎮台、広島の旧第５師団の分営であった。城下町でない善通寺に師団が設置されたことは異例であった。要因として地域住民の熱意、地価、交通の整備などが挙げられているが、公的文書はなく推測である。終戦後は一時郵政省簡易保険局が使用している。しかし警察予備隊発足後からは自衛隊が使用。

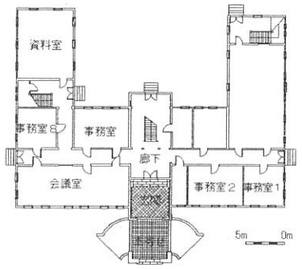

図２　旧第11師団司令部現状一階平面図

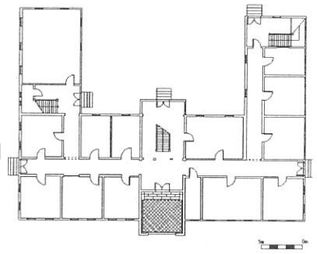

図３　旧第11師団司令部復原一階平面図

4－5 石川県第９師団司令部

写真３　金沢旧第９師団司令部

建設年代は明治29年。この建造物は第 11 師団司令部とほぼ同じ外観、平面形状をしている。同年代の建設、同じ形状を持つ。木造総二階建てで、コの字型平面をしている。外観は寄せ棟造りの屋根である。このことから当時一定基準に沿った建造物建設がなされていたのではないかと推測できる。

（歴史的経緯）

石川県金沢に師団司令部が設置されることは、日清戦争後の師団増設により決定された。過去の師団司令部が城下町に置かれていることから、金沢城を持つこの土地が選ばれたのではないかと推測する。

終戦後は連合軍に接収された後、金沢大学に移管された。金沢大学は金沢城内に所在していたが、キャンパス移転に伴い師団司令部の所管が現在の県に移った。昭和43年に現在地に移転されたが、その際に両翼が縮められ、外壁仕上げが漆喰からモルタルに変更された。これは移転先の土地広さの都合により左右が縮められたと考えられる。1997年に登録有形文化財に指定されている。

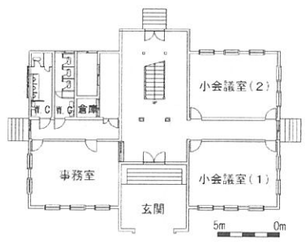

図４　旧第９師団司令部現状一階平面図

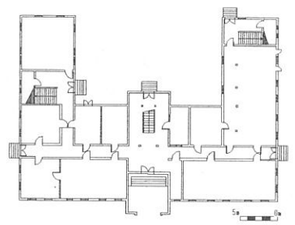

図５　旧第９師団司令部移築前一階平面図

5 旧陸軍施設の変遷

5－1 旧陸軍施設年表

表3 旧陸軍施設年表

県名	大阪	京都	石川	石川	石川	石川	香川	香川
旧所属	旧第4師団司令部	旧第16師団司令部	旧第9師団司令部	旧第9師団（偕行社）	旧第9師団（兵器支廠兵器庫）	旧第9師団（将校集会所）	旧第11師団司令部	旧第11師団（偕行社）
現所属	大阪市（旧大阪市立博物館）	聖母学院大学（本館）	石川県（石引分庁舎）	石川県（石引分庁舎）	石川県（県立歴史博物館）	陸上自衛隊金沢駐屯地（尚古館）	陸上自衛隊善通寺駐屯地（第二混成団本部）	善通寺市（市立郷土館）
建設年代	1931（昭和6）	1908（明治41）	1896（明治29）	1898（明治31）	1914（大正3）、1913（大正2）、1909（明治42）	1898（明治31）	1898（明治31）	1903（明治36）
当初建設地	大阪城内	伏見、深草村	金沢城内二の丸	金沢市大手町	金沢市出羽町	金沢市野田町	善通寺市	善通寺
現在所在地	大阪城内	伏見、深草村	金沢市石引町	金沢市石引町	金沢市出羽町	金沢市野田町	善通寺市	善通寺
当初用途	師団司令部庁舎	師団司令部庁舎	師団司令部庁舎	偕行社	兵器庫	将校集会所	師団司令部庁舎	偕行社
1871（明治4）	大阪鎮台が置かれる							
1874（明治7）								
1888（明治21）	鎮台を「師団」に改組							
1896（明治29）		歩兵第9連隊設置	師団司令部建設					
1898（明治31）				偕行社建設		将校集会所建設	師団司令部建設	
1903（明治36）								偕行社設置
1908（明治40）		師団司令部建設		石引町に移築される	兵器庫1棟建設			
1909（明治42）					兵器庫2棟建設			
1913（大正3）					兵器庫3棟建設			
1914（大正4）								
1918（大正8）								
1928（昭和3）	昭和天皇即位の記念事業で天守閣近くに師団司令部を新築することを決定							
1931（昭和6）	師団司令部建設							
1937（昭和12）								
1940（昭和15）	中部軍管区司令部となる							
1941（昭和16）								
1945（昭和20）	米軍に接収			北陸財務局等が使用	大蔵省所管となる	高等師範学校の食堂となる	郵政省簡易保険局が少しの間使用	米兵、豪州兵の社交場となる
1947（昭和22）					金沢美術工芸専門学校の校舎に利用			一部善通寺区検察局が利用
1949（昭和24）		聖母学院の所管となる（聖母学院大阪から移転）	金沢大学本部になる			警察予備隊の食堂となる	警察予備隊駐屯地となる	一部を香川県食料事務所和多屋支所 自衛隊クラブ・トリームランドとして利用
1950（昭和25）								
1952（昭和27）								
1953（昭和28）	大阪市に無償譲渡され、大阪市警察が使用する							
1955（昭和30）	大阪府警察に統合され、府警察が使用する							善通寺市役所として利用
1954（昭和34）								
1960（昭和35）	大阪市立博物館となる（一階のみ）						陸上自衛隊に移管 第二混成団本部となる	
1961（昭和36）								
1962（昭和37）	大阪市立博物館、全館閉館							
1965（昭和40）								
1967（昭和42）				石川県が購入し、郷土資料館資料室となる		金沢駐屯地、広報資料館「尚古館」となる		
1943（昭和43）			石川県が購入し、石引町に移築される					善通寺公民館として利用
1969（昭和44）								
1972（昭和47）					校舎移転に伴い、石川県に移管			
1978（昭和53）								善通寺郷土館となる
1980（昭和55）					石川県立歴史博物館第一期工事着手 第二期工事着手			
1983（昭和58）					県立歴史博物館開館			
1984（昭和59）					石川県指定有形文化財に指定			
1986（昭和61）								
1987（昭和62）								
1997（平成9）								
2001（平成13）	閉館		登録文化財となる	登録文化財となる				登録文化財となる

県名	山口	新潟	大阪	埼玉
旧所属	旧陸軍歩兵第42聯隊（武徳殿）	旧陸軍東京鎮台分屯営兵第8番大隊（兵舎）	旧野砲兵第4聯隊（第一大隊長官舎）	旧陸軍士官学校（皇族舎）
現所属	陸上自衛隊山口駐屯地（防長尚武館）	陸上自衛隊新発田駐屯地（白壁兵舎）	陸上自衛隊信太山駐屯地（修史館）	陸上自衛隊朝霞駐屯地（振武合記念館）
建設年代	1897（明治30）	1874（明治7）		1937（昭和12）
当初建設地	山口市大字上宇野令	新発田大手町	和泉市伯太町	神奈川 座間
現在所在地	山口市大字上宇野令	新発田大手町	和泉市伯太町	朝霞自衛隊駐屯地内
当初用途	旧軍部武徳殿	兵舎		旧陸軍士官学校皇族舎
旧軍部武徳殿建設				
旧陸軍東京鎮台分屯営兵第8番大隊の兵舎建設				
北白川宮成久王の住居建設（～大正9）				
陸軍士官学校皇族舎建設				
駐留軍司令官舎（米英濠）となる		敗戦後一時、新潟大学教育学部新発田分校の男子寮「尚風寮」となる		米軍のキャンプ・トレイクとなる
司令官舎の利用が終わる				
保安隊が金沢から移駐				
以後使用されていない				
現在の陸上自衛隊が進駐				
山口駐屯地、資料館「防長尚武館」となる			「修史館」という資料館及び幹部集会所となる	在日米陸軍司令部が「陸軍士官学校本科、当時の皇族舎を取り壊したいと連絡が入る（年代不明）
一部を資料館として開館				座間から朝霞へ皇族舎移築され、記念館となる

5－2 年表からの考察

旧陸軍施設が現在までどのように用途転用されてきたかを表3にまとめた。

研究対象とした旧陸軍施設は戦争が激化する以前の明治初めに建設されたものである。終戦後はほぼ全ての施設に連合国軍が介入することにより、建設当初の用途とは違う形で使用されており、大きな変化が起きている。

現在ではその多くが資料館や博物館として活用されていると同時に、登録文化財にも指定されている。

5－3 結果

以上結果より、大きく3つに分類することができる。

i）大学などの教育機関に転用されてもの

ii）市や県などの自治体に移管されたもの

iii） 自衛隊のなかの資料館となったもの

教育機関や自治体の資料館となった建造物は時間の経過の中で旧陸軍というイメージが薄れ、多種多様な人達に使われてきた。

しかし、陸上自衛隊内に存在する建造物は資料館としての存在もあまり知られることがなく、訪れるひとも旧陸軍関係の人や、その遺族がほとんどである。

6 まとめ

5－3の結果および先行研究をふまえると、以下のことが旧陸軍施設について挙げられる。

i） 研究対象である旧陸軍施設では師団司令部が比較的状態がよく残っており、ついで偕行社の数も多い。しかし、武徳殿や兵舎なども現存しているが、前者に比べ老朽化が激しく、取り壊しの可能性が高くなってきている。

ii） 各師団司令部の古写真や現存する師団司令部の建造物を比較すると、ほとんど統一された外観や形状をしている。それは非常にシンプルな洋館であった。偕行社にも同じことがいえる。先行研究により、明治43年に『建築要領草案』が陸軍省から発行され、師団施設群の標準的な平面形と仕様書等の役割を持つことが分かっている。この草案が発行される以前にも「陸軍営繕規程」が制定され、工事に関する規程が定められていた。調査対象建造物は草案発行以前に建設されたものであるが、各建物の標準的な形態を示すものがあり、それを基に各師団により建設が行われたのではないかと推測することができる。

iii） 部隊の中の施設、兵舎、武徳殿などの建造物は和洋折衷の建造物であった。それは旧日本陸軍が明治3年にフランス軍制を採用され、明治5年にフランス軍事顧問を招聘している。その影響が色濃く建築に対しても出てきているからだと考える。これらの施設は洋館を目指したが、まだ学習途中であったために日本の様式が所々に見られたと思われる。武徳伝は特殊な事例に挙げられ完全な近代和風であった。これは建設に際し毛利家が寄贈したという話があり、明治以前の武家社会の影響によるものだと考える。

7 新潟県白壁兵舎に関する利用提案

対象建造物の中でも、最も古くから現存する「白壁兵舎」に関して今後の利活用を提案する。

7－1 新発田駐屯地と新発田城

新発田駐屯地は新発田城を基盤に設置された部隊で、現在も並ぶように配置されている。新発田城は現在復原工事が行われており、平成16年に完成予定である。そのため今後周辺に観光ルートがひかれ活性化してくると思われる。新発田駐屯地内には何棟かの建造物が残されているが、老朽化が激しい。維持が困難な為、自衛隊は手放したいと今回の調査で聞くことができた。

7－2 白壁兵舎に対する今後の提案

「白壁兵舎」を自治体に移管し新発田城とともに活性化することを提案する。自治体に移管することにより、陸上自衛隊内から移築することが必要となる。その移築先を新発田城址公園とし、誰もが立ち入ることのできる資料館とする。この資料館の目的は新発田が城下町であることとともに、「軍都」の歴史を持つということを認知させることである。そして、戦争体験者が減少し戦争の実態を直接伝えることができなくなることを回避する手段ともしたい。訪れた人たちが自分の周りの人々にここの存在を伝え、次世代に語り継がれ「負」の遺産から平和の象徴となるような建造物になることを期待する。

参考文献・中森 勉 『明治後期における陸軍省「建築要領草案」にみる標準化について－師団司令部建築を例として－』1995

・（株）レーモンド設計事務所 『善通寺広報展示施設現状況調査』2003

・戦争遺跡保存全国ネットワーク/編 『戦争遺跡から学ぶ』 2003